

ますだいせき もっかんぼしゅつどいぶつ
 「増田遺跡(7区)木棺墓出土遺物」

1. 名 称 増田遺跡(7区)木棺墓出土遺物 (一括)
2. 種 別 佐賀市重要文化財 (考古資料)
3. 出 土 地 佐賀市鍋島町大字蛸久字中村
4. 出土年月日 平成11年6月2日
5. 所有者及び管理者 佐賀市
6. 概 要

〔1〕遺跡の概要

(1) 増田遺跡7区周辺の遺跡の概要

増田遺跡は佐賀駅の北西約3kmに位置し、脊振山南麓に広がる洪積台地の南端に立地する弥生時代～中世の複合遺跡であり、増田遺跡及び増田遺跡に北接する津留遺跡を合わせて増田遺跡群と呼んでいる。

増田遺跡群では増田遺跡1区から16区までの16地区、津留遺跡1区から3区までの3地区で発掘調査が実施されている。弥生時代前期末～中期後半の墓域が広範囲に形成されており、国内10例目となった多紐細文鏡をはじめ、擬朝鮮系無文土器を使用した甕棺墓等、朝鮮系要素が強い遺構及び遺物が検出されていることが特筆される。

また、弥生時代後期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代後期の集落、古代～中世の集落が検出されている。

諮問の対象物件の所属時期となる平安時代～鎌倉時代の集落をみると、津留遺跡1・2区を中心に平安時代前半の集落が検出されている。大型の建物を含む掘立柱建物群及び区画溝が検出されており、初期貿易陶磁器も出土していること等から一般的な集落ではない可能性が指摘されている。

津留遺跡1・2区の南に位置する増田遺跡3・6・7区では、南端部で平安時代末～鎌倉時代の集落が検出されている。区画溝、井戸、土坑及び屋敷墓の可能性のある木棺・土壙墓等が検出されており、津留遺跡1・2区で検出された平安時代前半の集落の南に平安時代末～鎌倉時代の集落が展開している。

(2) 増田遺跡7区の概要

民間開発に伴い平成11年度に実施した増田遺跡7区の調査では、弥生時代中期初頭～前半の遺構として、甕棺墓73基、木棺墓10基、土壙墓2基及び土坑等、平安時代の遺構として、溝1条等、平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構として、木棺墓2基、土壙墓1基、土坑及び溝等を検出している。

現在、調査地は民間企業の敷地となっている。遺構は測量、写真撮影等により記録保存し、遺物はすべて取り上げ、目録を作成し、発掘調査報告書作成後、佐賀市文化財資料館及び富士文化財収蔵庫で保管している。

〔2〕SP7204 木棺墓、遺物出土状況及び出土遺物

(1) SP7204 木棺墓

墓壙の平面形は隅丸長方形を基調とし、長軸長2.3m、短軸長1.3m、深さ0.5mを測る。埋土の土層断面の痕跡から、棺体は長さ1.4m程度、幅0.5m程度の木棺であったと推定される。墓壙の構造については、墓壙掘削後、表面がやや滑らかな拳大の石を底面に敷き、木棺を設置した後、敷石よりやや小さい石を裏込として土とともに充填している。敷石は北に向かうほどや

や高くなる傾向にある。

遺物は土師器小皿、中国からの輸入品である白磁碗、同安窯系青磁皿、銅鏡の他、砥石及び碁石と考えられる規格性がみられる石製品等が出土している。出土遺物から 12 世紀後半の造営と考えられる。

また、近接する SP7201 木棺墓と SP7303 土壙墓は、SP7204 木棺墓と規模が近似しており、造営もほぼ同時期と考えられることから、有機的なつながりをもつものと考えられる。

佐賀市蓮池上天神遺跡で検出された 12 世紀末～13 世紀初頭の木棺墓の棺体の大きさ（棺体：長さ 1.4m、幅 0.53m）は本木棺墓とほぼ同じであるが、人骨が残存し、伏臥位で膝から下を背中側に折り曲げて埋葬されていた。底板は検出されず、供献・副葬品等は出土していない。本木棺墓も伸展葬は不可能で、副葬品があるため、伏臥位は考え難く、仰臥屈葬または側臥屈葬と考えられる。

（2）遺物出土状況

木棺推定範囲内の中央北方で、重ねられた白磁碗 2 点と青磁皿 1 点が底面から浮いた状況で出土し、また、中央北方東側では、土師器皿 1 点と青磁皿 1 点が重なるように、底面から浮いた状況で出土している。さらに、被葬者が位置する箇所から白磁碗が出土していることから、これらの遺物は木棺の蓋の上部に置かれた棺外供献品であった可能性が高い。

銅鏡は木棺推定範囲内の北東隅で、鏡面を上に向け、ほぼ底面直上で出土している。また、銅鏡の南側では、木片が数点認められることから、銅鏡は木製容器に納められて副葬された可能性がある。さらに、木棺推定範囲内の北東隅からは、扁平な円形を呈し、大きさが揃えられた白色系と濃色系の 2 系統の色をもつ、碁石と考えられる石製品が 17 点出土している。銅鏡及び碁石については、被葬者が生前に愛用していた副葬品であると考えられる。

太宰府市大宰府条坊跡(第 050 次調査)で検出された 12 世紀後半の木棺墓(棺体:長さ 1.94m、幅 0.60～0.61m)は湖州鏡等を納めた漆手箱が出土し、人骨が残存していた。遺体は仰臥屈葬で、棺蓋裏面の頭部側に装着された棚に手箱が置かれたと想定されている。湖州鏡は布に包まれた後に方形に折った和紙に収められており、丁重に扱われた様子が窺える。(太宰府市教育委員会 1999)

（3）出土遺物

土師器小皿

単位：cm

番号	器種	種類	口径	器高	底・高台径	色調	残存状態
1	小皿	土師器	*7.8	1.0	*5.4	淡褐色	1割程度
2	小皿	土師器	8.4	1.0	7.1	淡黄褐色	8割程度
3	小皿	土師器	*8.8	1.4	*7.4	淡褐色	2割程度
4	小皿	土師器	9.4	1.3	6.7	淡褐色	7割程度

*付数値は復元値

1～4 は轆轤を用いて成形され、轆轤を回転させた状態で轆轤から糸を用いて切り離されている。焼成は良好である。

これら 4 点は、つぎに述べる佐賀市域でつくられた土師器小皿の特徴と合致しており、在地でつくられたものと考えられる。

12 世紀前半～中頃は底面がヘラ切り離し・糸切り離しが混在し、12 世紀後半にはすべて糸切り離しとなる。また、12 世紀前半は口径 8～9cm 前後、12 世紀後半は法量が大型化し、口径 9.5cm 前後のものが多くみられる。(松本 1996)

SP7204 木棺墓から出土した土師器小皿は 12 世紀後半の所産と考えられる。

白磁椀

単位：cm

番号	器種	種類	口径	器高	底・高台径	釉調	残存状態
5	椀	白磁	17.8	7.3	6.0	乳黄灰白色	ほぼ完形
6	椀	白磁	18.2	7.6	6.5	乳灰白色	ほぼ完形

5・6は重なって出土し、下にあった6が割れていたが、破片を接合し、ほぼ完形となった。これら2点は、大宰府出土資料を中心とした陶磁器分類において、白磁椀 V-4b 類という型式に分類されている。12世紀中頃から出土がみられるようになり、12世紀後半まで一定量出土する。(太宰府市教育委員会 2000)

同安窯系青磁皿

単位：cm

番号	器種	種類	口径	器高	底・高台径	釉調	残存状態
7	皿	同安窯系青磁	10.9	2.0	4.2	淡緑黄色	ほぼ完形
8	皿	同安窯系青磁	11.0	2.3	4.7	淡緑黄色	ほぼ完形

8は割れていたが、破片を接合し、ほぼ完形となった。これら2点は、大宰府出土資料を中心とした陶磁器分類において、同安窯系青磁皿 I-2b 類という型式に分類されている。同安窯系青磁は12世紀中頃～12世紀後半に出土がみられる。(太宰府市教育委員会 2000)

銅鏡

単位：cm

番号	名称	種類	径	縁の厚さ	厚さ	色調	残存状態
9	銅鏡	銅鏡	12.4	0.3	0.1	黄灰色～緑灰色	完形

※色調は保存処理前の状態

円形を呈する凸面鏡で、縁は台形に近い蒲鉾型を呈する。鏡背は素文で紐の右側に銘が鋳出される。銘については不明瞭であり、判読は困難であるが、1行4文字程度と考えられ、終わりの2文字は「照子」と読める。

1行の銘文の類例は少なく、場所・人名が「照子」の前に入る可能性がある。保存処理の際、X線写真が撮影されているが、「照子」の前の文字の判読は困難であった。銘文以外に鏡背に文様はみられない。

無地の鏡背上に場所・人名を鋳出した銅鏡として、中国の宋時代の紀名号銘鏡類があげられる。銘文にみられる場所の違いによって名称が異なり、そのうち、銘文に湖州の表記がみられる湖州鏡が最も多く出土している。(孔ほか 1991)

本銅鏡は、銘文に場所の表記はみられないが、紀名号銘鏡類の一つと考えられる。紀名号銘鏡類の中で最も出土例が多く、その代表例といえる湖州鏡の流入時期については、11世紀後半～12世紀前半の出土例が確認でき、12世紀に盛行し、13世紀以降減少することが指摘されている(高尾 2023)。

県内における当該期前後の銅鏡の出土例としては、佐賀市久池井B遺跡(9世紀末～11世紀前半)2点、佐賀市泉三本栗遺跡(9世紀末～10世紀初頭)1点、佐賀市一本木遺跡1次(13世紀)1点、佐賀市本村遺跡6区(中世)1点、唐津市鏡神社経塚(中世)4点等があげられるが、出土例は多くない。これらのうち、久池井B遺跡出土例は方形素文鏡片と円形素文鏡片、泉三本栗遺跡出土例は円形素文鏡片で、いずれも古代の墓からの出土、一本木遺跡出土例は猪目形

の湖州鏡（完存）、本村遺跡出土例は素文の柄鏡（柄の一部を欠損）で、いずれも国府周辺の中世墓からの出土である。鏡神社経塚出土例は円形の湖州鏡 1 点（完存）、六花形の湖州鏡 3 点（完存）である（佐賀県教育委員会 1970）。

銅鏡が出土した 5 遺跡のうち 4 遺跡が墓からの出土であり、湖州鏡が出土した一本木遺跡も墓からの出土である。墓からの湖州鏡の出土例は九州を中心に中国・四国地方以西で確認されている。

九州・沖縄における墓からの湖州鏡の出土例については、中世墓資料集成（中世墓資料集成研究会 2004ab）及び湖州鏡の分布と流通（高尾 2023）に基づくと、少なくとも福岡県 27 点、佐賀県 1 点、長崎県 1 点、大分県 8 点、熊本県 1 点、宮崎県 6 点、鹿児島県 6 点、沖縄県 0 点で、合計 50 点を数えるが、墓の調査件数に対する出土例は非常に少なく、希少といえる。

砥石

単位：cm

番号	名称	種類	長さ	幅	厚さ	色調	残存状態
10	砥石	石製品	*8.4	2.3	0.8	暗灰色	不明

*付数値は残存値

4 面が使用されている。

碁石

単位：cm（重さはg）

番号	名称	種類	径	厚さ	重さ	色調	残存状態
11	碁石	石	1.6×1.9	0.6	2.6	白色	完形
12	碁石	石	1.5×1.8	0.6	2.5	白色	完形
13	碁石	石	1.4×1.8	0.6	2.3	白色	完形
14	碁石	石	1.7×2.0	0.9	4.0	灰色	完形
15	碁石	石	1.6×2.0	0.8	3.5	黒色	完形
16	碁石	石	1.7×2.2	0.8	4.1	黒色	完形
17	碁石	石	2.0×2.1	0.7	4.3	黒色	完形
18	碁石	石	1.8×2.1	0.8	3.4	褐色	完形
19	碁石	石	1.4×1.7	0.7	2.4	白色	完形
20	碁石	石	1.6×1.9	0.8	3.5	白色	完形
21	碁石	石	2.1×2.3	1.0	7.0	白色	完形
22	碁石	石	1.8×2.1	0.6	3.2	白色	完形
23	碁石	石	1.9×2.0	0.7	3.6	黒色	完形
24	碁石	石	1.8×1.9	0.7	3.2	黒色	完形
25	碁石	石	1.8×1.9	0.9	3.7	褐色	完形
26	碁石	石	1.6×1.7	0.5	2.4	黒色	完形
27	碁石	石	1.8×2.0	0.7	4.0	暗灰色	完形

小形で短径 1.4～2.1cm、長径 1.7～2.3cm、厚さ 0.6～0.9cm の扁平な円形を基調とし、大きさが揃えられている。表面は滑らかであり、ある程度、磨かれているものと考えられる。色調は暗灰色系と白色系の 2 種類がみられる。

7. 指定理由

弥生時代の墓域として注目されていた増田遺跡群であるが、残存状態が良好で、出土状況が明確な古代から中世の銅鏡を含む SP7204 木棺墓出土遺物は当該期の墓制を良好に示す遺構の出土遺物としてあらためて評価される。

増田遺跡 7 区で検出された 12 世紀後半の墓群が造営された時期は屋敷墓が普遍化する時期にあ

たり、北部九州では陶磁器椀に土師器杯・皿を伴う供献行為が一般化し、葬送儀礼に関与する人物により、共通した埋葬・祭祀形態が流布されたといわれる時期である（狭川 1993）。

SP7204 木棺墓は陶磁器に土師器小皿を伴い、当時の供献行為をよくあらわしており、屋敷墓的な小規模な墓群を形成し、当時の墓の在り方がよく反映されている遺構である。

このような墓群を造営した人物については、少なくとも輸入陶磁器を供献行為の際に準備でき、高級品である鏡を所有できた、在地有力者層、有力な貿易商人等の可能性がある。

出土遺物については、完形の銅鏡をはじめ、同じく完形の輸入磁器である白磁椀、青磁皿等、残存状態が極めて良好である。

よって、増田遺跡 7 区 SP7204 木棺墓出土遺物は中世の埋葬・祭祀形態が成立する頃の墓の様相を知るうえで、葬送儀礼に使用された供献・副葬品を良好に今に伝える非常に貴重な資料であり、佐賀市重要文化財に指定する価値を有する。

※ 木偏の「椀」については、材質によらず土器、陶磁器、木器、金属器等をまとめて一つの器形として記述する必要がある場合、材質により偏を使い分けると煩雑になることがあるため、一般的な木偏の椀を使用している。

参考文献

佐賀県教育委員会（1970）「佐賀県の経筒」

小田富士雄（1990）「豊前・足立山発掘の古鏡 - とくに湖州鏡について -」『乙益重隆先生古希記念論文集 九州上代文化論集』pp. 461-474. 乙益重隆先生古希記念論文集刊行会

孔祥星・劉一曼著、高倉洋彰・田崎博之、渡辺芳郎訳（1991）『図説 中国古代銅鏡史』海鳥社

狭川真一（1993）「墳墓における供献形態の変遷とその背景 - 北部九州を中心として -」『貿易陶磁研究 第 13 号』pp. 1-20. 日本貿易陶磁研究会

松本隆昌（1996）「肥前（佐賀県）における土器からみた貿易陶磁 - 肥前府中の古代末～中世前半の資料から -」『中近世土器の基礎研究 XI』日本中世土器研究会

太宰府市教育委員会（1999）『大宰府条坊跡 XI - 第 50 次調査 -』太宰府市の文化財第 42 集

太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡 XV - 陶磁器分類編 -』太宰府市の文化財第 49 集

佐賀市教育委員会（2001）『増田遺跡群 V - 7 区の調査 -』佐賀市文化財調査報告書第 121 集

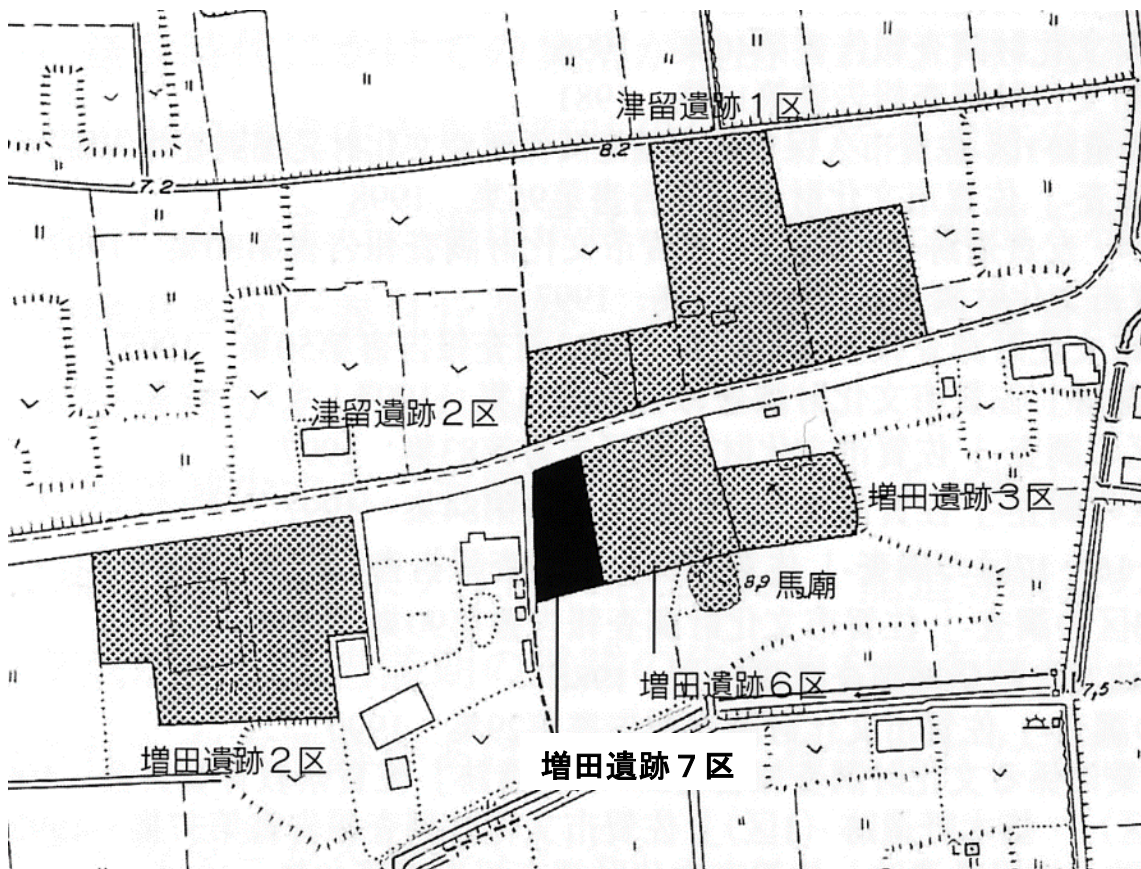
中世墓資料集成研究会（2004a）『中世墓資料集成 - 九州・沖縄編（1） -』

中世墓資料集成研究会（2004b）『中世墓資料集成 - 九州・沖縄編（2） -』

高尾将矢（2023）「湖州鏡の分布と流通」『令和 5 年度九州考古学会総会研究発表資料集』九州考古学会



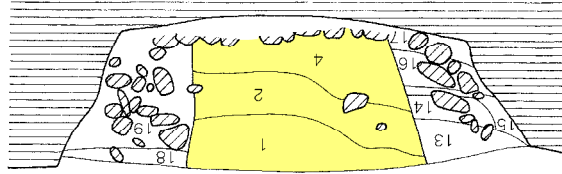
増田遺跡 7 区位置図



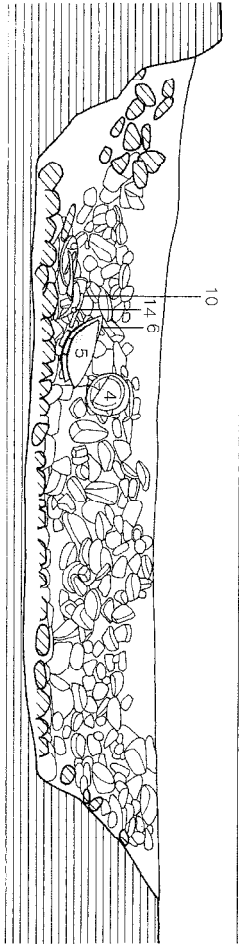
増田遺跡 7 区周辺調査区設定図



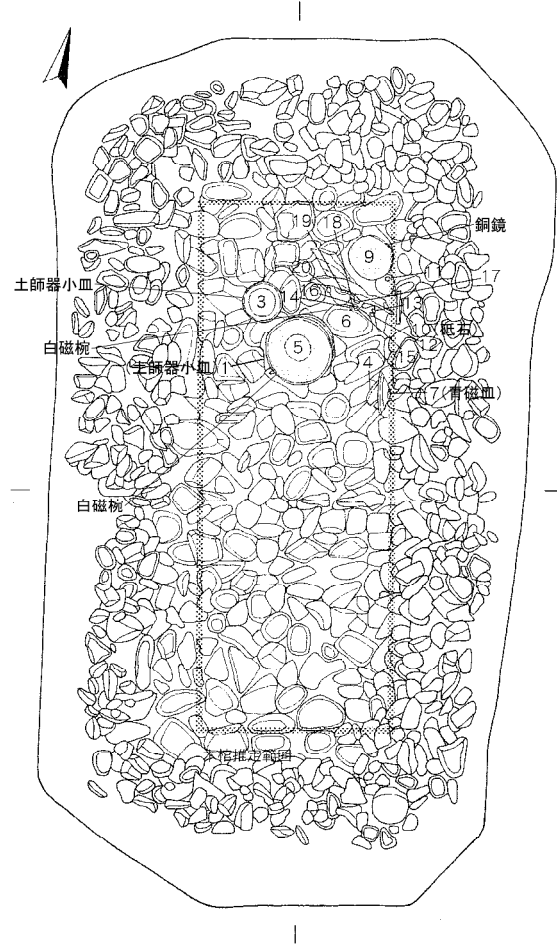
増田遺跡 7 区遺構配置図



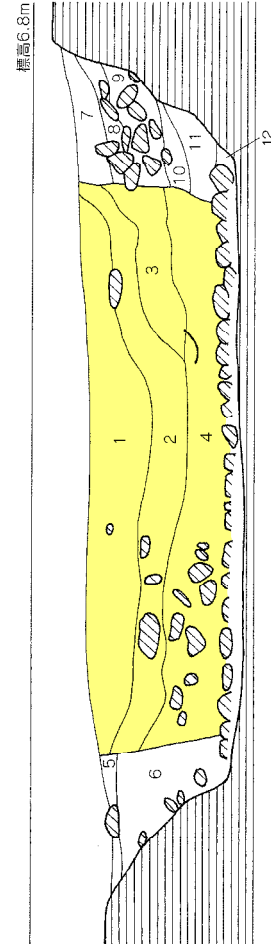
標高6.8m



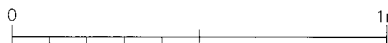
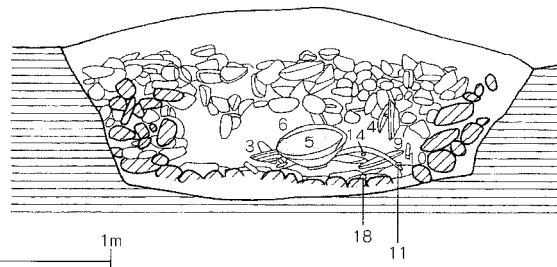
標高6.8m



標高6.8m



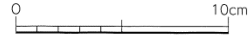
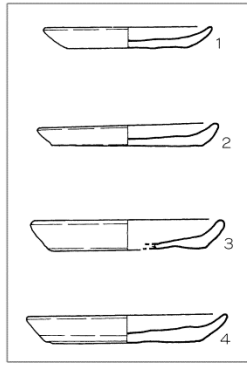
標高6.8m



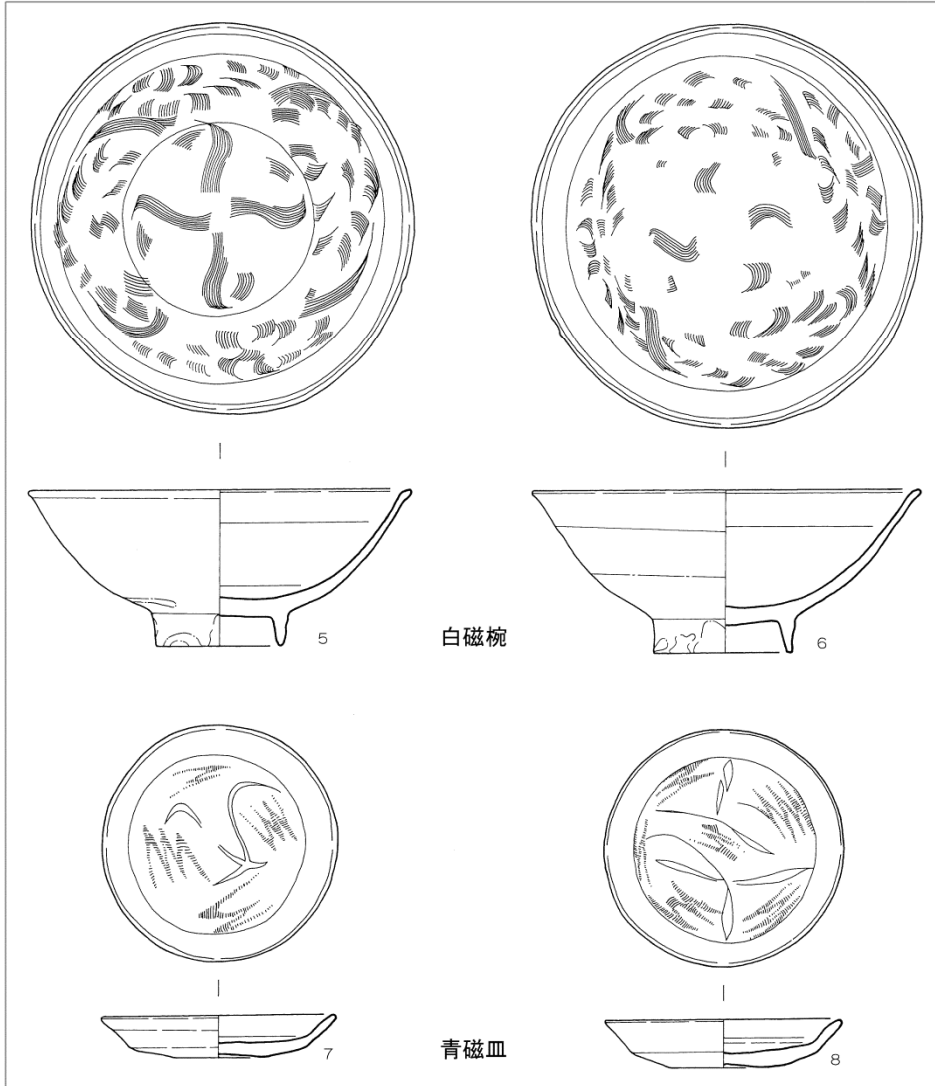
- 1. 暗褐色土 (礫を含む)
- 2. 暗灰色土 (砂を多く含む)
- 3. 暗灰色砂質土
- 4. 暗灰色砂質土 (灰色が強い)
- 5. 暗褐色土 (砂を含む)
- 6. 暗灰色土 (礫を多く含む)
- 7. 暗褐色土 (砂を含む)
- 8. 暗灰色土 (礫を多く含む)
- 9. 暗褐色土 (礫を多く含む)
- 10. 暗褐色土 (暗灰色土ブロックを含む)
- 11. 暗灰色土 (暗黄褐色粘質土小ブロックを含む)
- 12. 暗褐色土 (暗灰色粘質土ブロックを含む)
- 13. 暗褐色土 (砂を含む)
- 14. 黄灰色土
- 15. 暗褐色土
- 16. 暗灰色土
- 17. 暗灰色土 (次黄褐色土ブロックを含む)
- 18. 暗褐色土 (砂を含む)
- 19. 暗褐色土 (礫を多く含む)

SP7204 木棺墓遺物出土状況

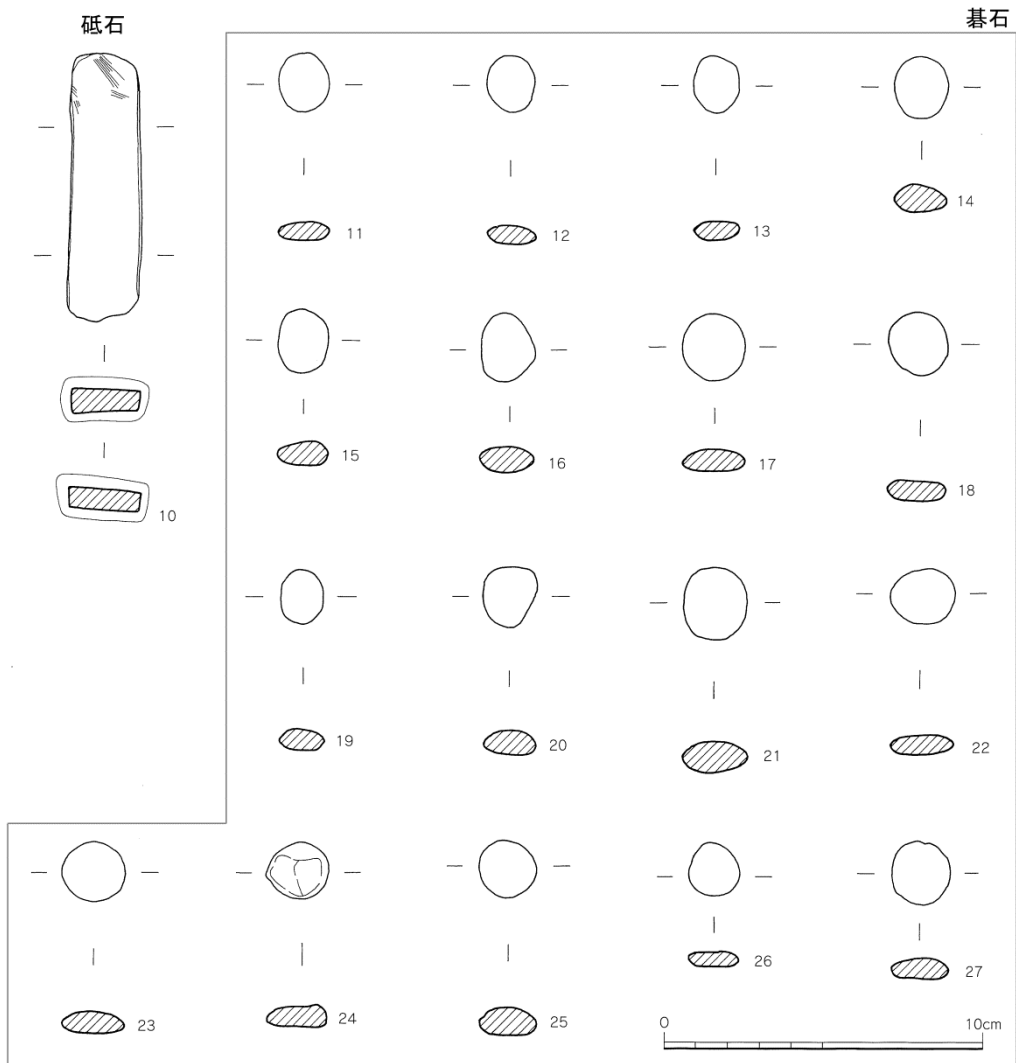
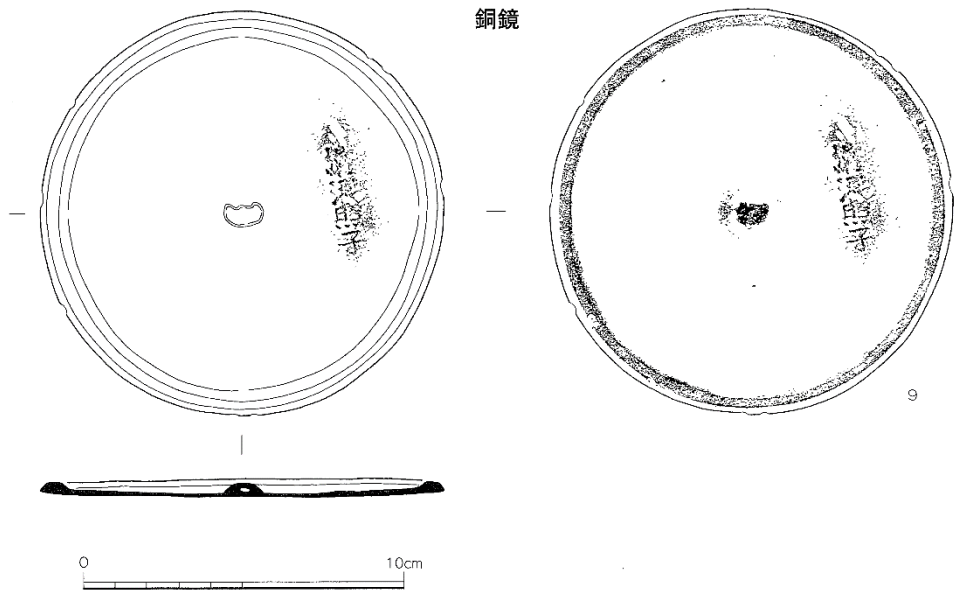
土師器小皿



輸入磁器



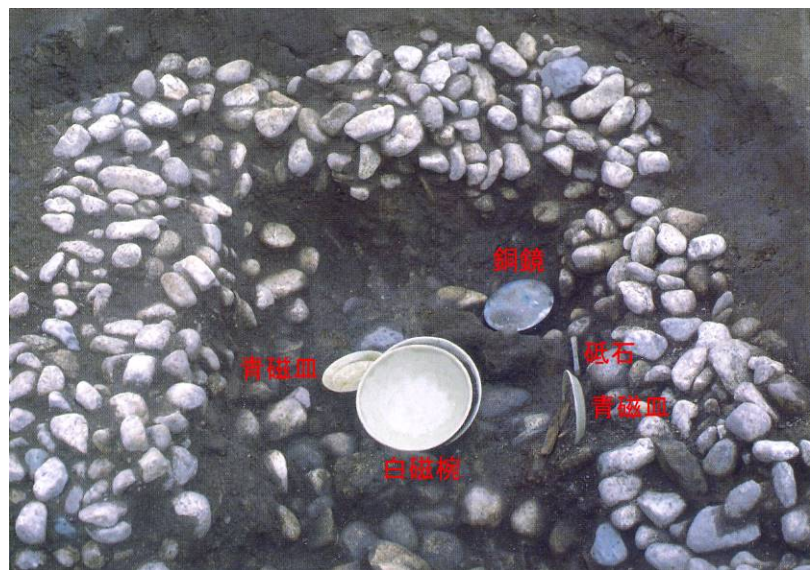
SP7204 出土遺物実測図 1



SP7204 出土遺物実測図 2



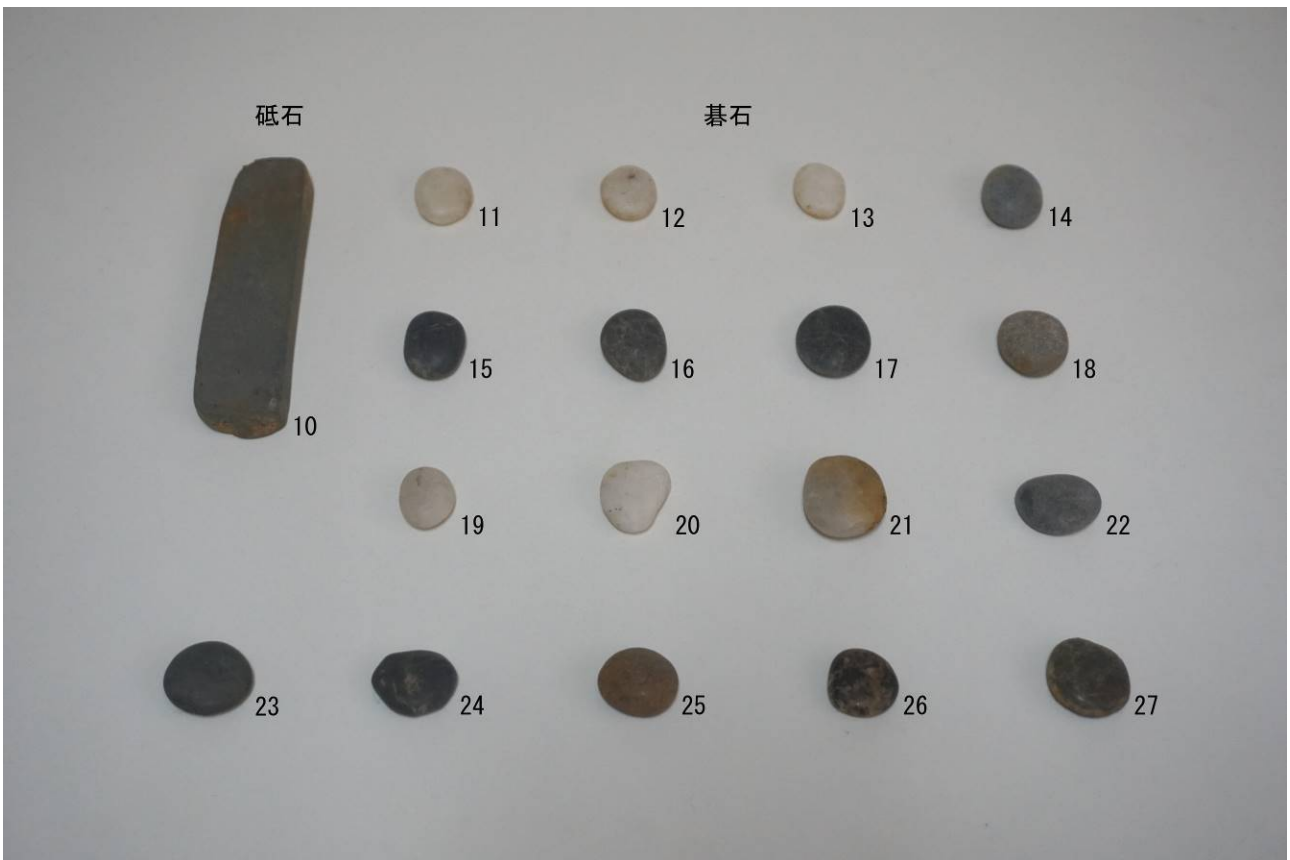
増田遺跡 7区調査区北半部（南から）



SP7204 木棺墓（南から）及び遺物出土状況（南から）



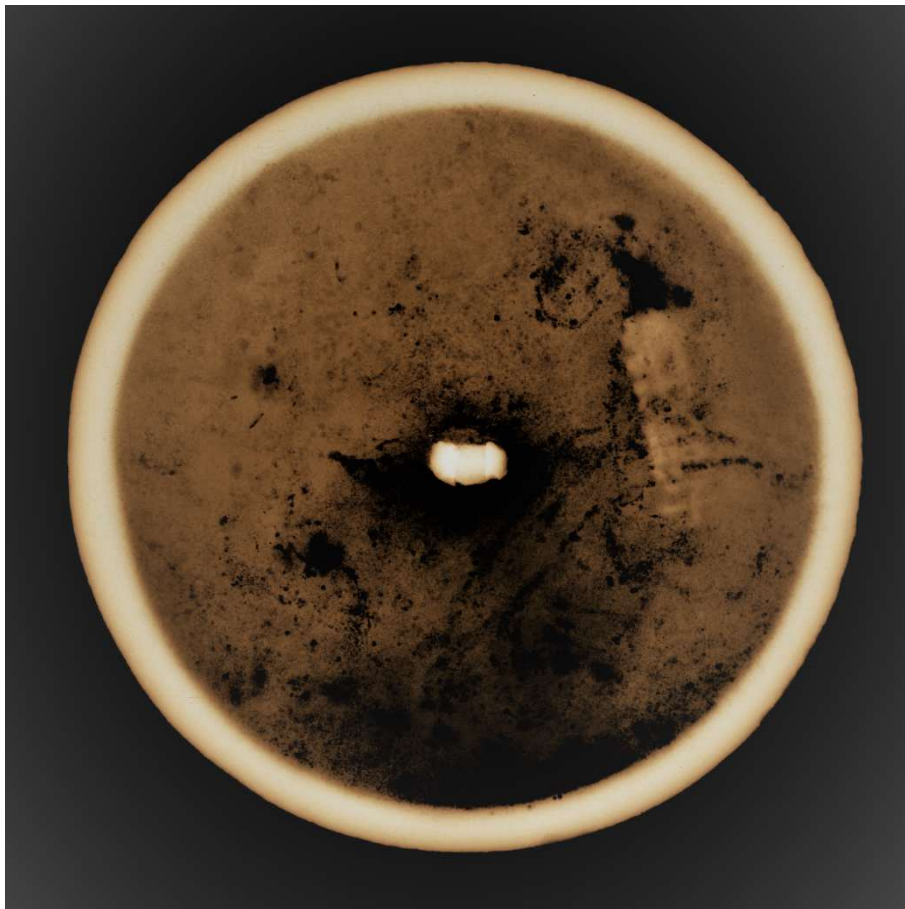
SP7204 木棺墓出土遺物（土師器小皿及び輸入磁器） ※写真内番号は実測図内番号と同一



SP7204 木棺墓出土遺物（砥石及び基石） ※写真内番号は実測図内番号と同一



SP7204 木棺墓出土遺物（銅鏡） ※写真内番号は実測図内番号と同一



SP7204 木棺墓出土銅鏡 X線写真 ※画像を加工して掲載